

2021年6月22日

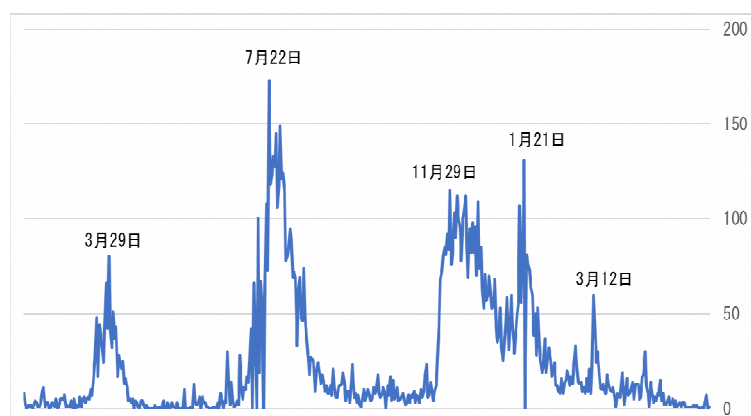
コロナ禍における香港の現状について

香港事務所長 波多野 直美

1. 香港における新型コロナウイルス感染症の状況

今年5月以降、香港における新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は1桁台であり、域内の感染状況は落ち着いている。これは香港政府による徹底した水際対策と感染者の洗い出し及び封じ込め政策が功を奏している証左であろう。

筆者は今年2月初旬に香港に入港後、21日間の隔離を経て現在に至るが、本レポートではコロナ禍における香港の現状について紹介したい。



(図1) 香港における新型コロナウイルス感染症の新規感染者数推移
(2020年1月28日～2021年6月3日)

(國家高速網路與計算中心「香港 COVID-19 疫情紀錄表單」より作成)

2. 香港政府による規制とワクチン接種状況

(1) 社会経済活動に対する規制

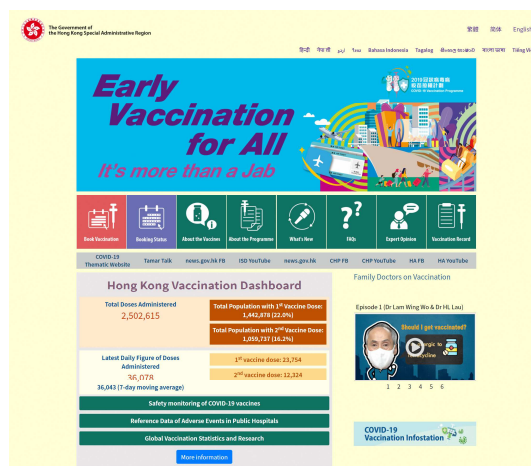
現在も屋内外の公共の場所や交通機関でのマスク着用が義務付けられており、公共の場所では5人以上の集まりが禁止されている。飲食店の営業形態（人数制限、営業時間等）はワクチン接種等の条件によって異なる4つのタイプがあり、多くの飲食店が1テーブル4人・午後10時までといった形態を選んで営業している。教育関係では、5月24日からすべての幼稚園、小学校及び中等教育学校で対面授業（半日のみ）が実施されている。

(2) ワクチン接種状況

香港では今年2月26日からワクチンの無料接種プログラムが開始されており、現在は12歳以上の香港ID保有者（申請中の人も含む）がこのプログラムの対象となっている。多くの外国人労働者によって成り立つ香港らしく、このプログラムの対象者は国籍を問わないことから、日本からの駐在員等もワクチンを接種することが可能であり、筆者も5月初旬までに

2回目のワクチン接種を済ませた。ワクチン接種にあたっては、専用の予約サイトでワクチンの種類（ビオンテック、シノバックの2種類から選択可）、日時、場所を選び、簡単に予約することができる。

香港では6月10日現在、2回目のワクチン接種を終えた人の割合は17.5%と低く、筆者の周辺でもいわゆる「様子見」の香港人が多いようである。接種率を上げることが喫緊の課題であることから、ワクチン休暇の付与はもちろん、最近では財界による様々なインセンティブが発表されている¹。



香港政府のコロナワクチンサイト。簡単にワクチン接種予約ができるほか、接種率も確認できる。

3. 今後の見通し

現在の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を見る限り、域外との自由な往来ができるようになるにはまだまだ時間を要すると思われる²。一方で香港域内の状況は非常に安定しており、ワクチン接種を一定の条件として社会経済活動が徐々に緩和されている。

コロナ禍で最も苦境を強いられた旅行業界にとっても、最近では、ツアー随行員のワクチン接種やツアー参加者の新型コロナウイルス感染リスク通知アプリ「安心出行」の使用を条件に、域内の団体ツアー（上限30名）が解禁されており、さらに昨年2月から停止していたクルーズ船の出入境についても、今後、無寄港クルーズ旅行の解禁という形で緩和に向かう予定である。

来月には香港旅行博やブックフェアといった大型展示会も開催される見込みであり、当事務所としては、こうした機会を捉えつつ、さらにSNS等を活用しながら、県産品の販路拡大やコロナ後を見据えたインバウンド誘客に取り組んでいきたいと考えている。

¹ 18歳以上で2回の接種を完了した香港市民を対象として、1,080万香港ドル（約1億5,000万円、1HKD≒14円）相当の新築住宅を抽選でプレゼントするといったインセンティブも登場した。

² 5月26日から開始予定であったシンガポールとのトラベルバブルは、シンガポールの感染拡大により再度の延期となった。また、5月中に開始予定であった中国本土居住者に隔離なしでの来港を認める新スキーム「来港易」についても広東省の感染拡大のため延期となった。